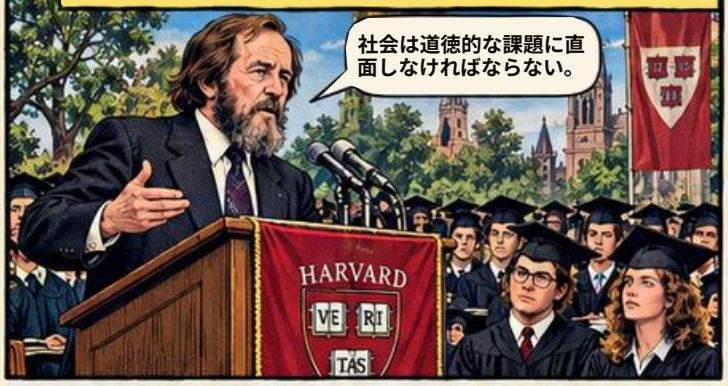
PETER DAVID BETER・音声書簡 第35号

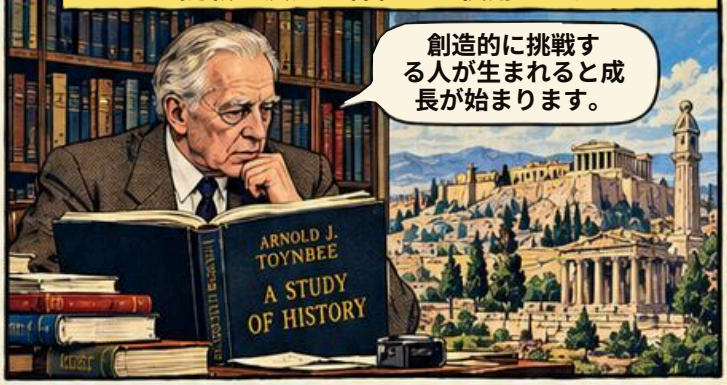
1978年6月30日

テーマ1 西洋文明の崩壊と崩壊

1 ベターはソルゼニツィンのハーバード演説を、西部での勇気と精神的な疲労の減少について警告として読んだ。



2 彼は文明の興隆と衰退を説明するために、トインビーの挑戦と反応の枠組みを使用した。



3 Beter氏の要約では、創造的少数派は、社会の成長と文化の洗練を支援することによって支持を獲得します。



4 ブレークダウンは、社会が次の大きな課題に会うという決意を失うと始まると、彼は主張する。



5 解脱と解離は、支配者が権力を保って社会的統一が解き放たれる段階であると彼は述べた。



6 彼はボリシェヴィキと彼がスピリチュアル・コミュニケートと呼んだ派派との争いを訴えた。



7 彼はソルジェニーツィンの道徳的警告とカーター政権の展望とを対比した。



8 ベターは道徳的な再生のない物質的な力は西洋文明を守ることができないと結論付けた。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第35号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。

PETER DAVID BETER・音声書簡 第35号

1978年6月30日

テーマ2 アメリカの秘密支配者の神風計画

1 ベターは1977年9月の会合を、ハーベストムーンの戦いの後、最後通告として思い起こした。



2 彼は、日本の必死の終戦戦術を、無知な政治精神の類似語として使った。



3 彼は、中国政策と日本を近づける努力がモスクワに対する対抗策を再構築する試みであると解釈した。



4 彼は、以前に無視されていた同盟国との関係を修復しようとする試みとして、NATOに新たな注目を見ました。



5 彼はカナダの漁業制限をソ連軍による海上揚陸の隠蔽と解釈した。



6 ベターは、決定的なアメリカのソナー優越性の主張に挑戦し、隠れたソビエトの利点を主張した。



7 彼は沖合での掘削とグロマー船を、デスクトップ作戦の再開と疑われた。



8 税制上の不安や緊急事態計画は中央集権的管理に向けて操作できると警告した。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第35号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。

PETER DAVID BETER・音声書簡 第35号

1978年6月30日

テーマ3 クレムリンは惑星間ロシア帝国を計画している

1 ベターは、ツィオルコフスキーの地球外への人類拡大というビジョンを通じて、ロシア人宇宙工学を紹介した。



2 彼は技術的な冒険と、より大きな人間の生息地という長期的なビジョンとを対比した。



3 彼の説明では、哲学的および心理的準備は、身体的および技術的な訓練とともに重要でした。



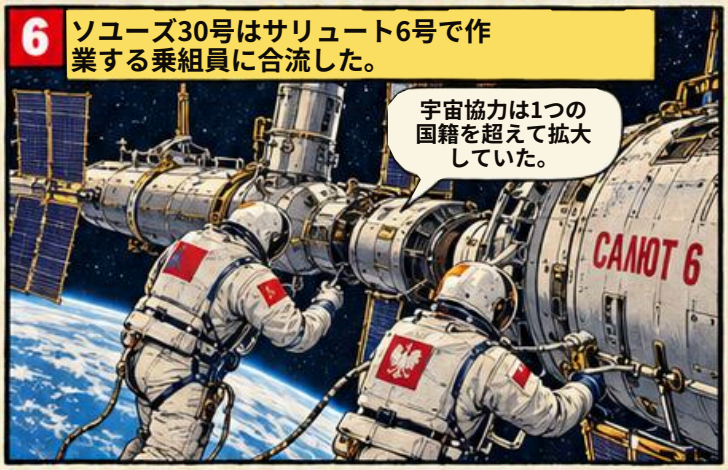
4 彼は、この提案された帝国を、ローマの異なる民族の法人化と比較した。



5 彼は国際参加の例として、ソユーズ28号のソビエト・チェコスロバキアのミッションを挙げた。



6 ソユーズ30号はサリュート6号で作業する乗組員に合流した。



7 ベターは、ウラジーミル・コヴァリョノクが以前に秘密のソ連月面着陸を指揮したという主張を追加した。



8 彼は、文明の衰退は人間の精神の終わりを意味するものではないという見解で締め括った。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第35号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。